

## ハスモンヨトウ

### ○ 被害と発生生態

山口県では年間5～6回発生するが、6～7月に飛来した成虫は移動性が高く、被害が発生することは少ない。山口県では野外での越冬はできないと考えられる。雑食性で多くの植物を食害する。ダイズでは、8月以降に葉を、9月下旬以降は葉だけでなく莢・子実も食害する。9月以降になるとキャベツ、ハクサイ等の露地野菜で増加する。イチゴ等の施設では周年発生する。

卵塊は黄褐色の毛で覆われ、大豆では上位葉の葉裏に、施設では鉄骨パイプやビニール等の高い位置に産卵することが多い。ふ化後2齢までは集団で摂食する習性があるため、食害を受けた葉が白く見える(白変葉)。3齢幼虫期以降は分散して食害する。全幼虫期の摂食量の約95%は老齢幼虫によるものである。

### ○ 防除方法

#### (ア) 耕種・物理的防除

- ・施設では、開口部に防虫ネット(目合い4mm)を設置する。
- ・黄色蛍光灯等を周夜点灯し、飛来を防止する。
- ・卵塊や若齢幼虫が集団で生息している白変葉を早めに除去する。

#### (イ) 薬剤防除

- ・中～老齢幼虫(体長1.5cm以上)になると薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫期に防除する。
- ・フェロモントラップによる誘殺数から防除時期を判断する場合は、8月以降の誘殺ピークから2週間目が防除適期となる。
- ・ダイズでは、8月下旬～9月中旬に1～2回薬剤防除を行うが、多発生の場合は補完散布を行う。
- ・各種薬剤に抵抗性が発達しているため、薬剤散布後は必ず効果を確認する。



卵塊からふ化する幼虫

ダイズの白変葉

若齢幼虫によるキャベツの被害



老齢幼虫



フェロモントラップ



誘殺された雄成虫

